

2024 年制定 複合構造標準示方書 正誤表

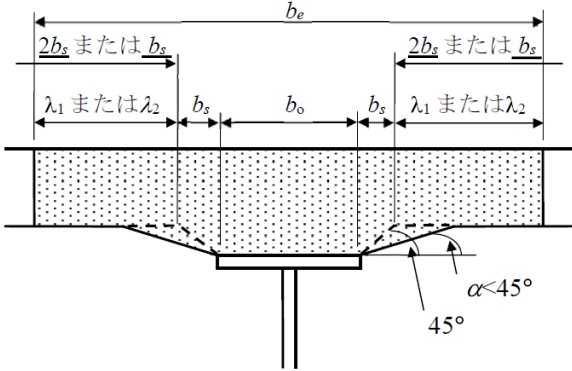
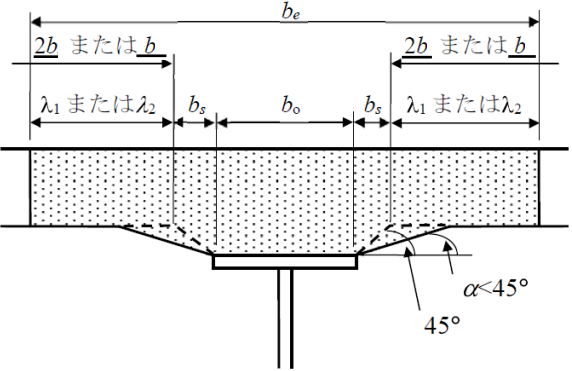
構造物編・標準編

編・標準	箇所	誤（下線部）	正（下線部）
構造設計標準	2.3 作用の種類 【解説】 p.50	1) 永続作用：死荷重，土圧，水圧，プレストレス力， <u>乾湿の影響，物質の影響（酸素，二酸化炭素，塩化物イオン，酸，アルカリ等）</u> ，紫外線，電磁波， 地盤変動・支点移動の影響等 2) 変動作用：活荷重，流体力，波力，風荷重，雪荷重，温度の影響等	1) 永続作用：死荷重，土圧，水圧，プレストレス力，地盤変動・支点移動の影響等 2) 変動作用：活荷重，流体力，波力，風荷重，雪荷重，温度の影響， <u>乾湿の影響，物質の影響（酸素，二酸化炭素，塩化物イオン，酸，アルカリ等）</u> ，紫外線， <u>電磁波等</u>

資料編Ⅰ（作用編～評価方法編）

編・標準	箇所	誤	正

資料編Ⅱ（部材・部位編）

編・標準	箇所	誤	正
I -a 合成はり	p.351 解説 図 3.2.3		
I -a 合成はり	p.351 式（解 3.2.3）	また、λ_1 および λ_2 は、次式により計算する. $\left. \begin{aligned} \lambda_1 \text{ または } \lambda_2 &= b & \left(\frac{b}{\ell} \leq 0.5 \right) \\ \lambda_1 \text{ または } \lambda_2 &= \left[1.1 - 2 \left(\frac{b}{\ell} \right) \right] b & \left(0.05 < \frac{b}{\ell} \leq 0.30 \right) \\ \lambda_1 \text{ または } \lambda_2 &= 0.15\ell & \left(0.30 < \frac{b}{\ell} \right) \end{aligned} \right\}$	また、λ_1 および λ_2 は、<u>単純支持はりの場合</u>、次式により計算する. $\left. \begin{aligned} \lambda_1 \text{ または } \lambda_2 &= b & \left(\frac{b}{\ell} \leq 0.05 \right) \\ \lambda_1 \text{ または } \lambda_2 &= \left[1.1 - 2 \left(\frac{b}{\ell} \right) \right] b & \left(0.05 < \frac{b}{\ell} \leq 0.30 \right) \\ \lambda_1 \text{ または } \lambda_2 &= 0.15\ell & \left(0.30 < \frac{b}{\ell} \right) \end{aligned} \right\}$
I -a 合成はり	p.355 下から 4 行目	<u>（３）について</u> ずれ止めの照査では、・・・	<u>（２）について</u> ずれ止めの照査では、・・・
I -a 合成はり	p.378 上から 2 行目	<u>（５）について</u> 支間部において鋼部材の・・・	<u>（４）について</u> 支間部において鋼部材の・・・
I -a 合成はり	p.379 下から 1～3 行目	<u>（４）について</u> 合成はりでは、接合部の疲労破壊に関する限界状態を検討・・・（略）・・・疲労限界状態を設定する必要がある.	削除
Ⅲ-b 鉄筋コンクリート巻立て補強部材	p.669 式（解 3.3.1）	$L = \alpha \frac{f_{yd}}{f_{bod}} \phi$ (解 3.3.1)	$L = \alpha \frac{f_{yd}}{4 f_{bod}} \phi$ (解 3.3.1)